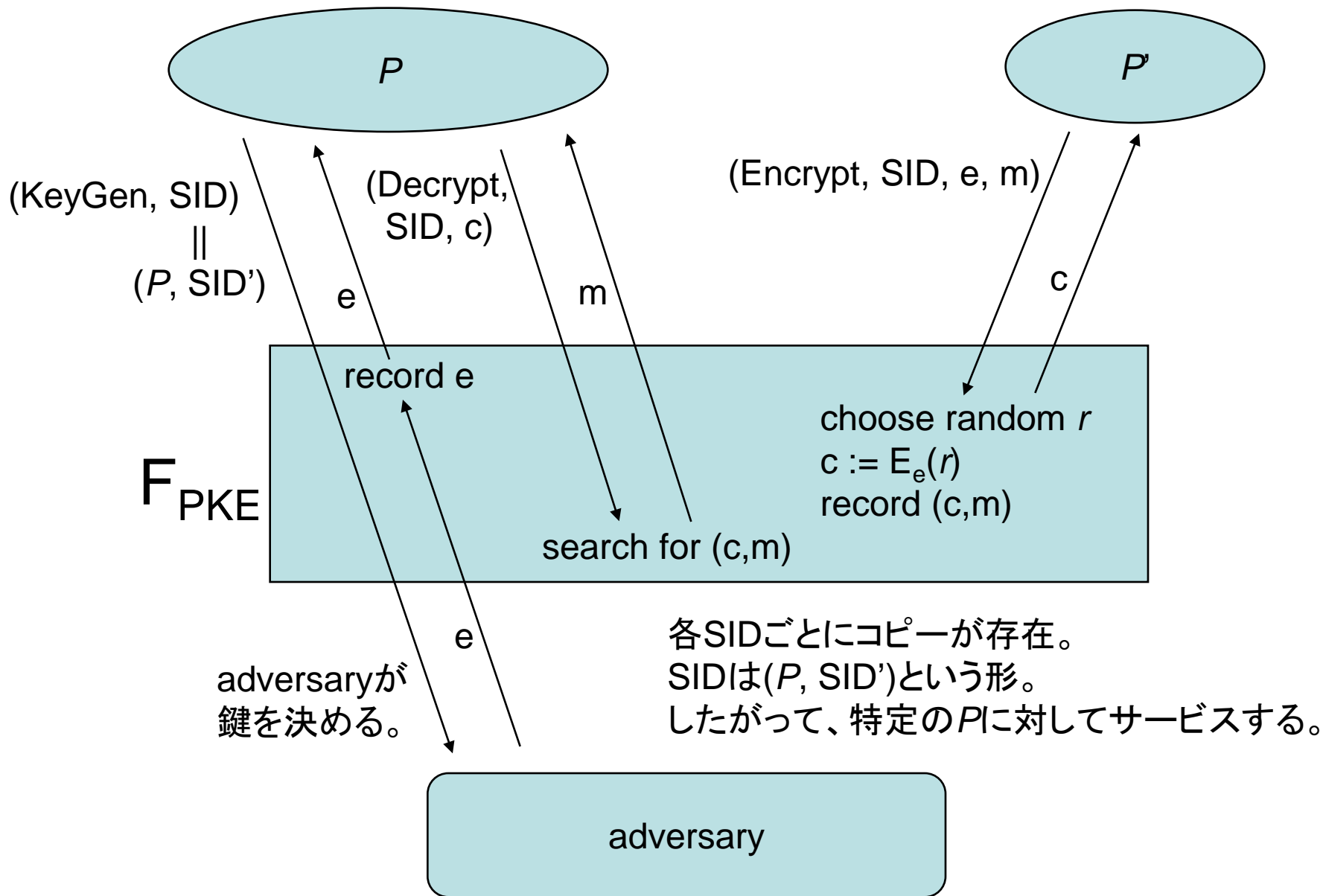
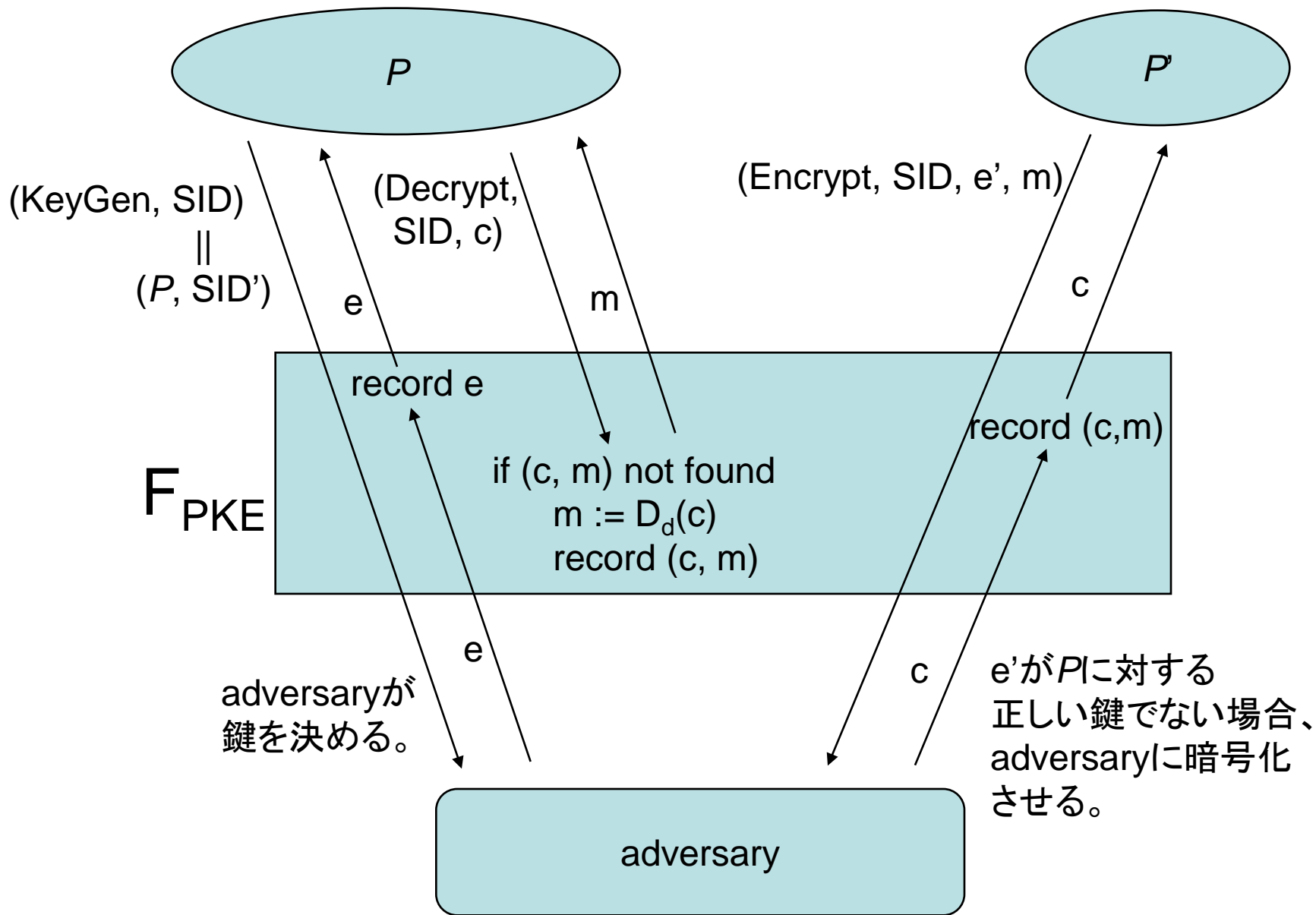


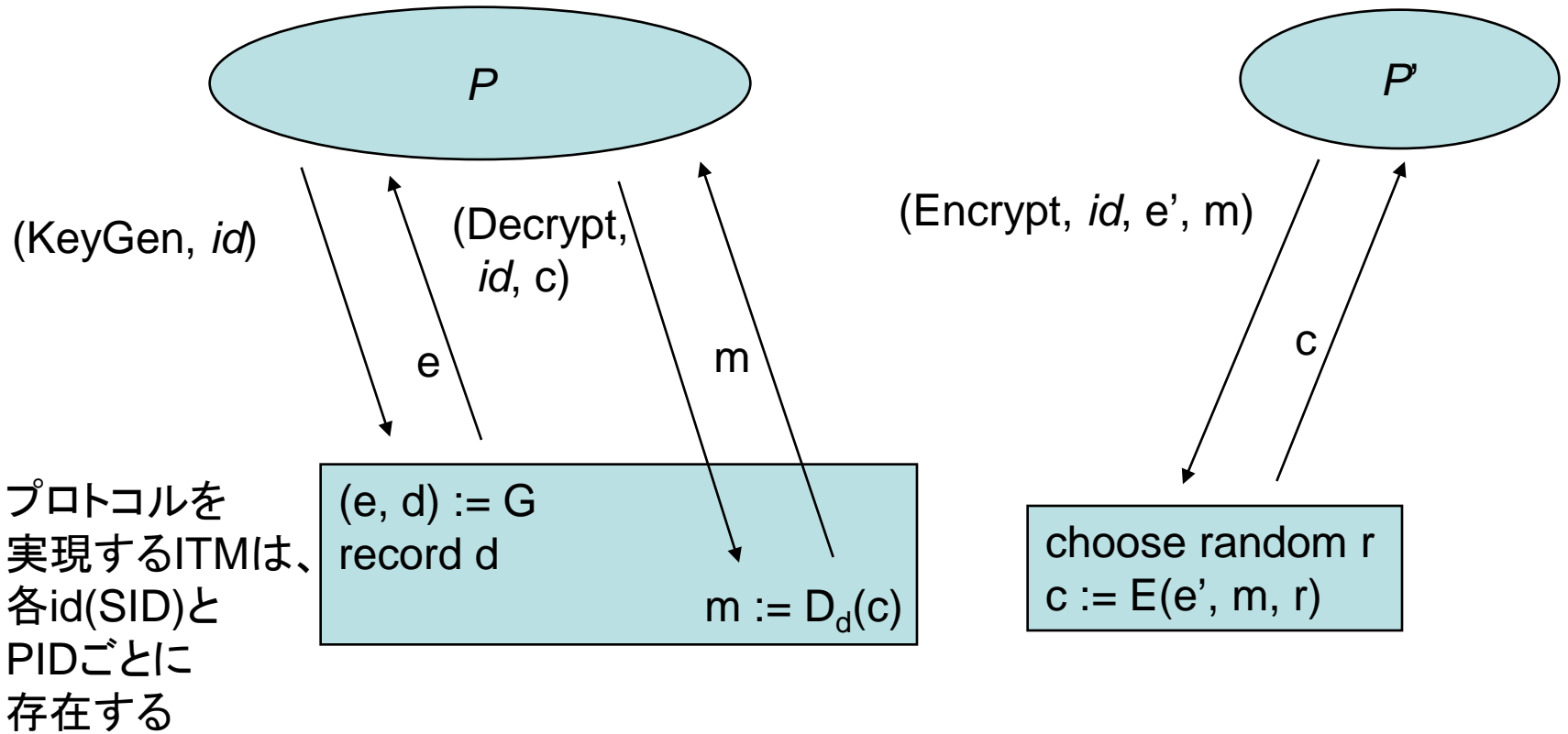
F_{PKE}



F_{PKE}

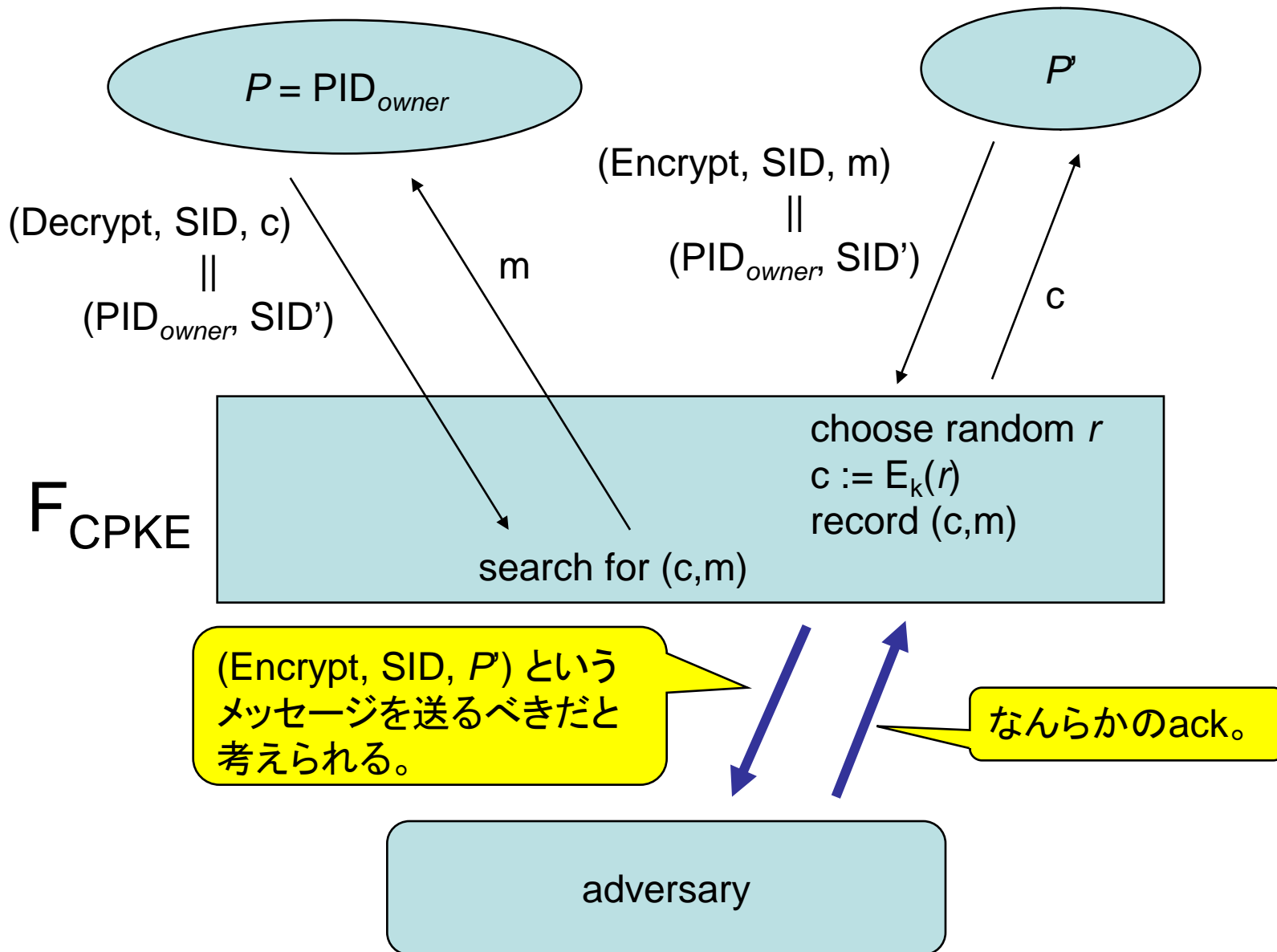


π_S

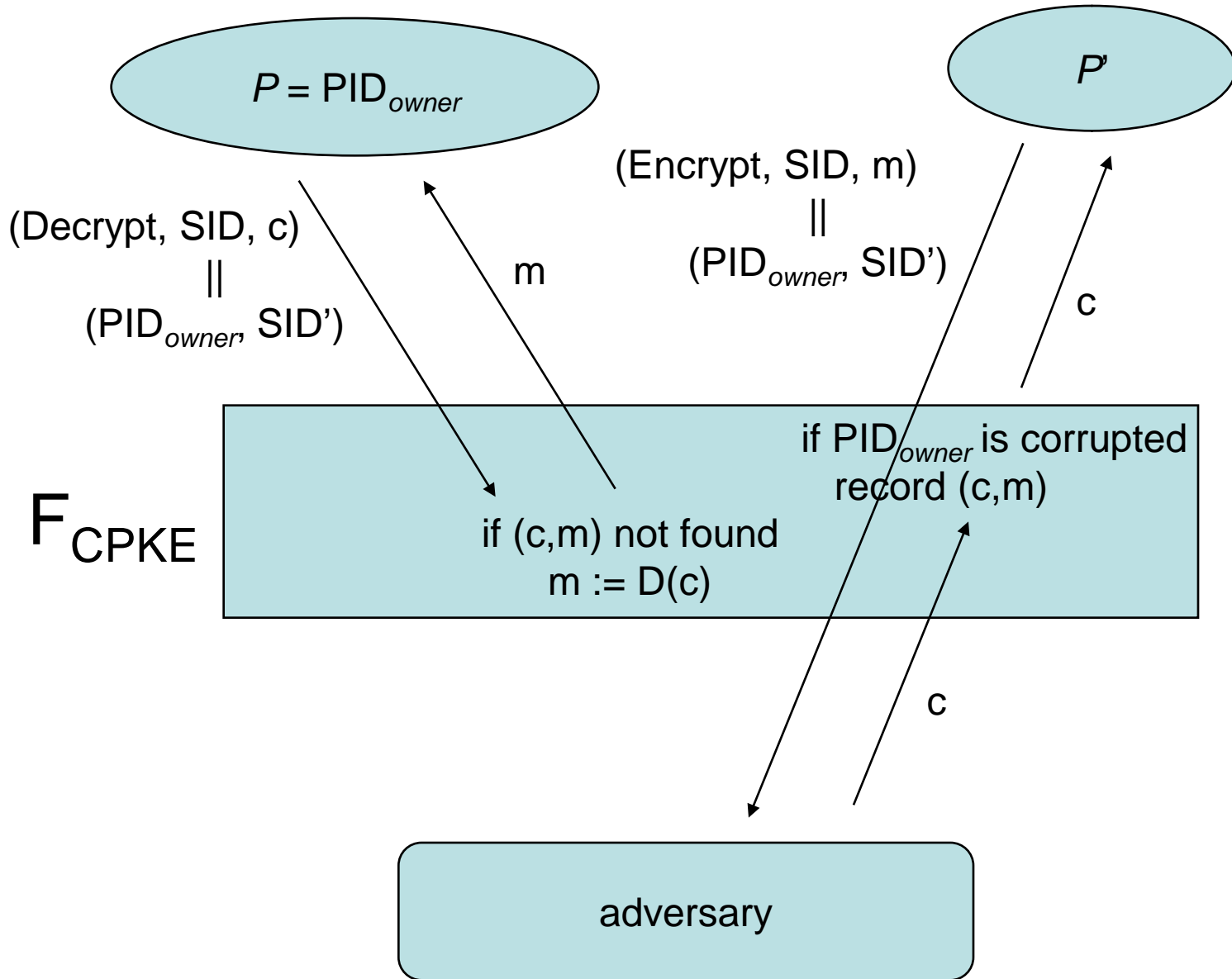


Theorem: $S=(G, E, D)$ はIND-CCA2
if and only if π_S は F_{PKE} をsecurely realize

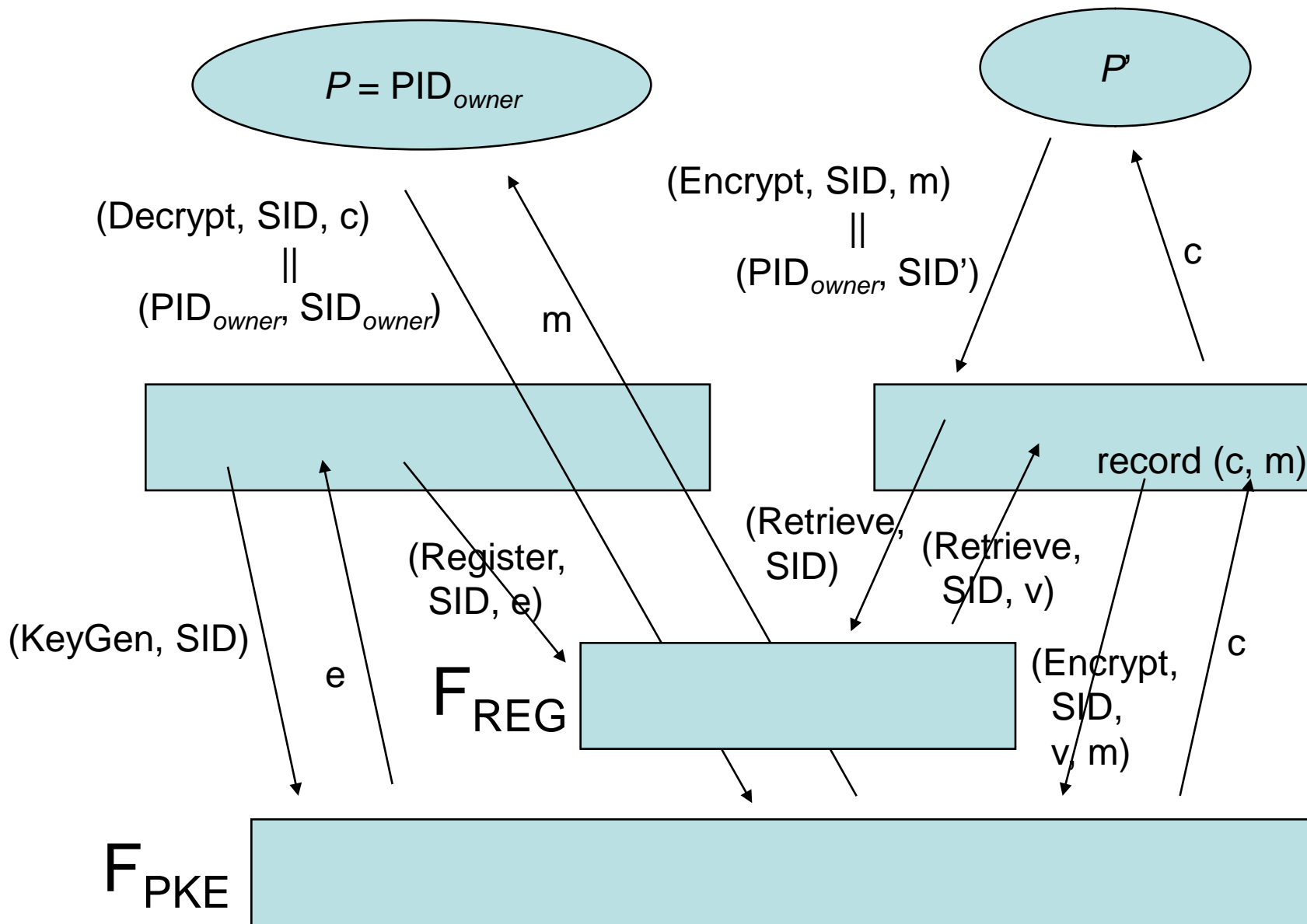
F_{CPKE}



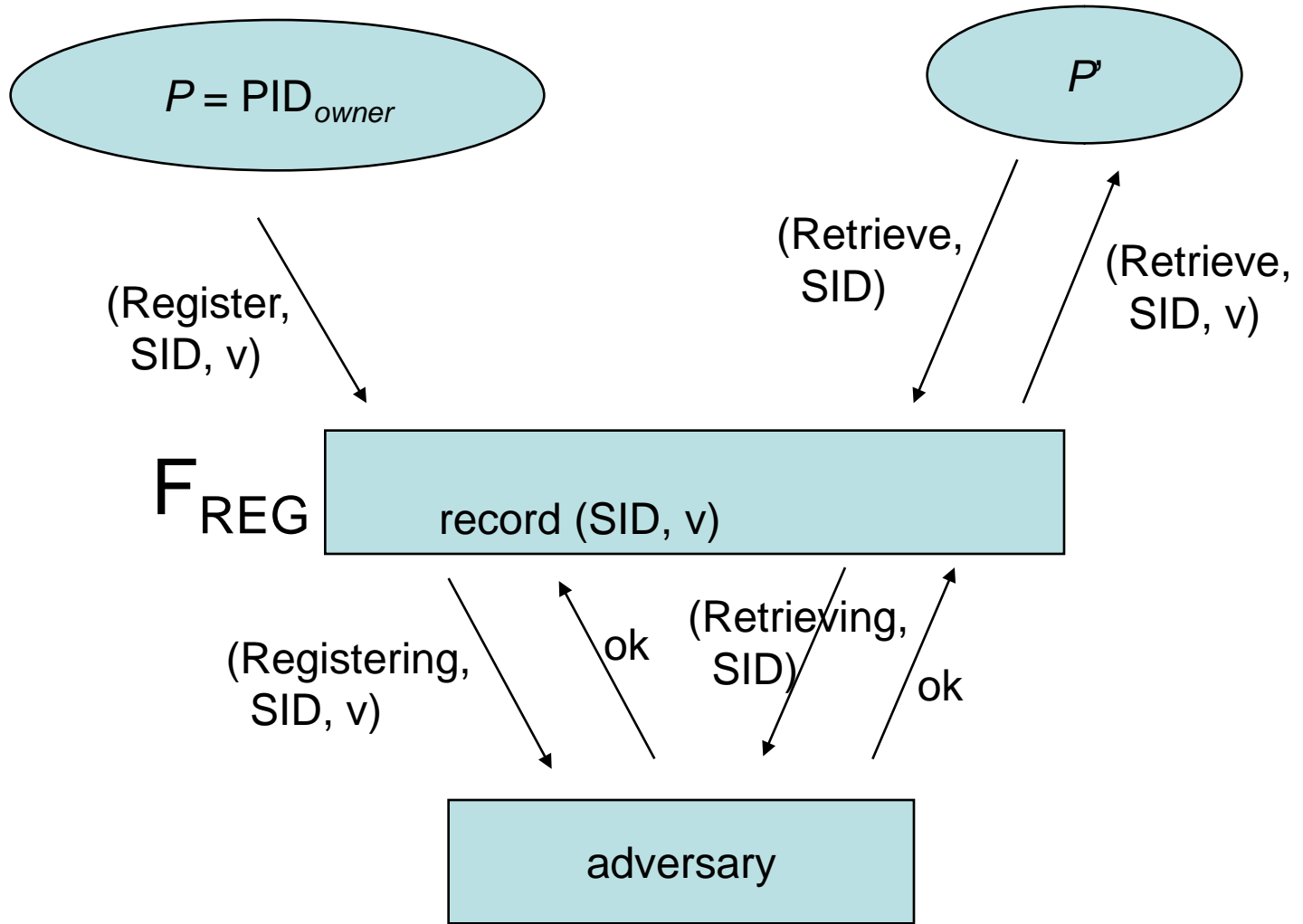
F_{CPKE}



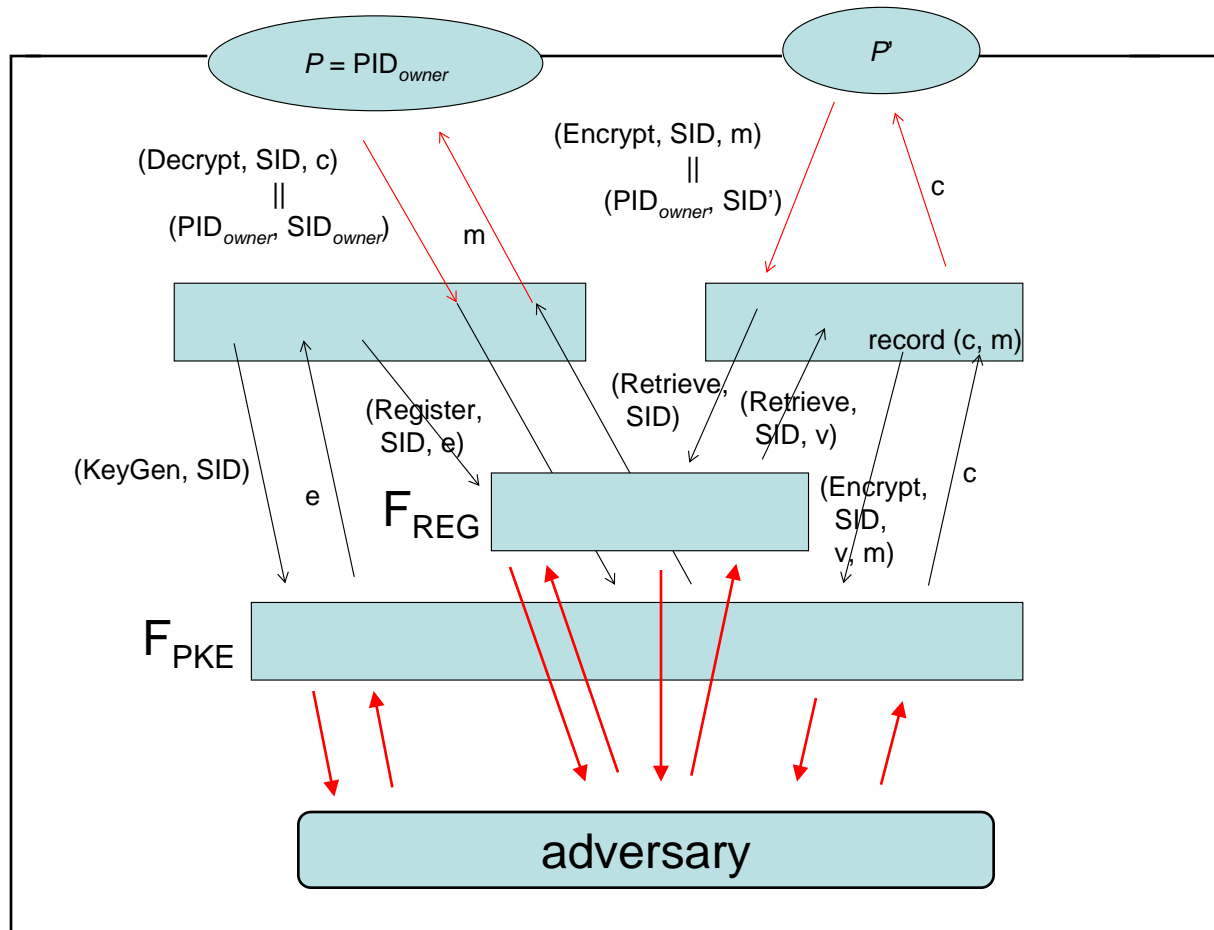
P_{RENC}



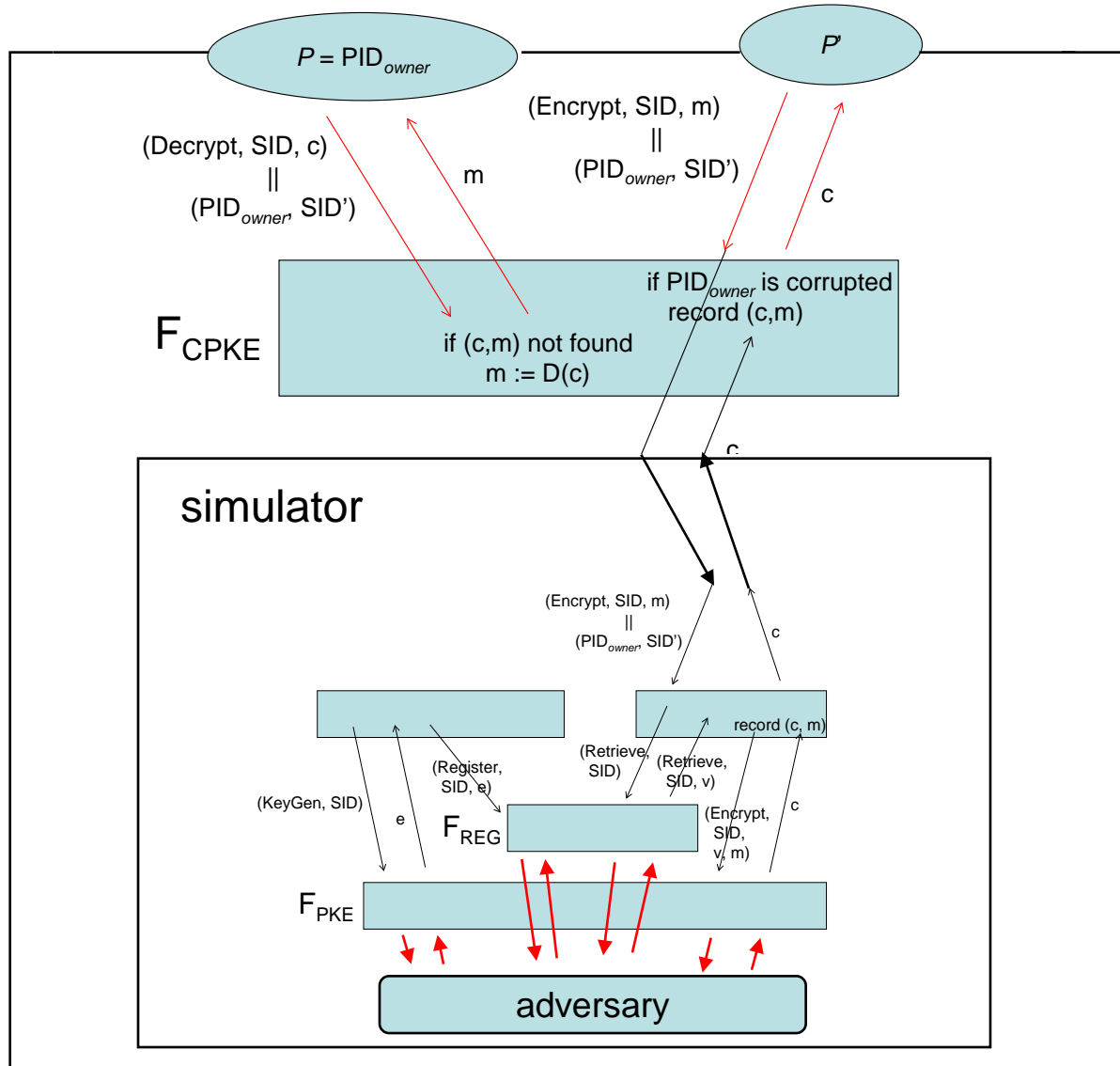
F_{REG}



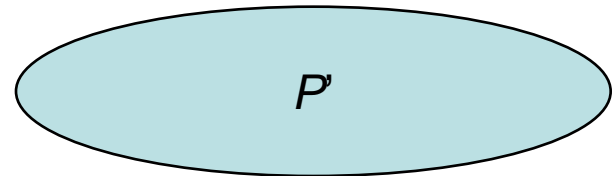
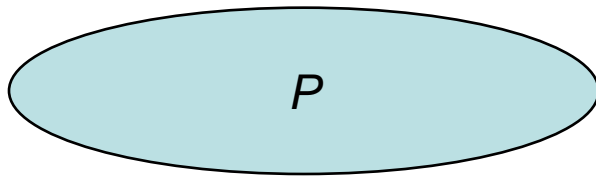
Environment Z



Environment Z



F_{2MA}

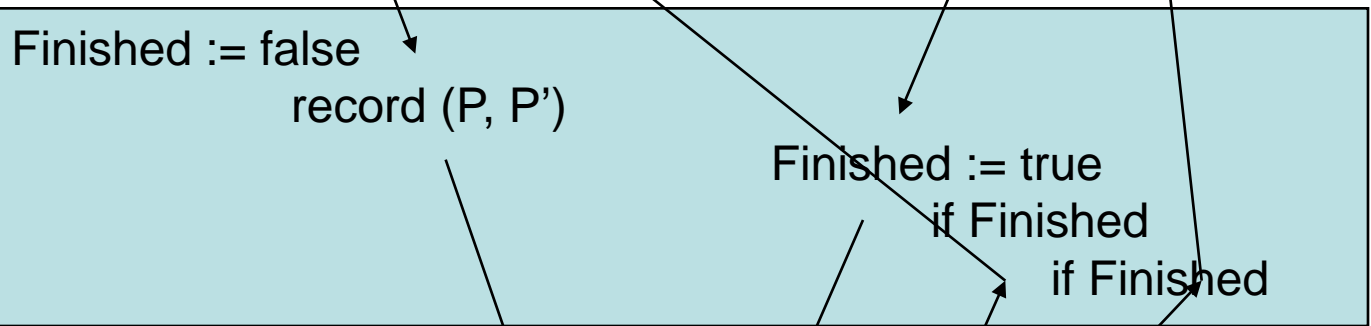


(Authenticate, SID,
P, P', RID)

(Authenticate, SID,
P', P, RID')

Finished

Finished



F_{2MA}

(P, P', RID)

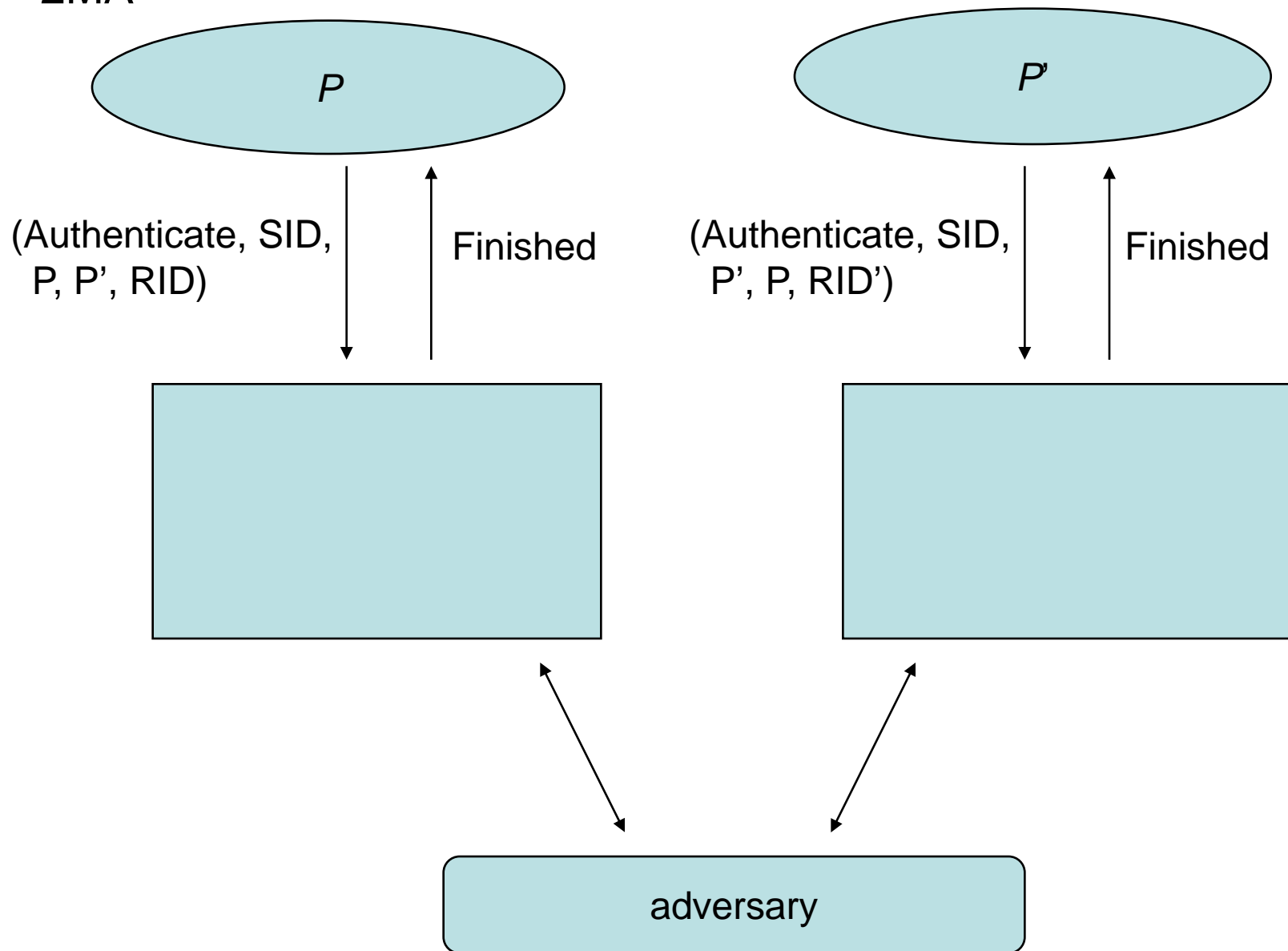
(P', P, RID')

(Output, SID, P)

(Output, SID, P')

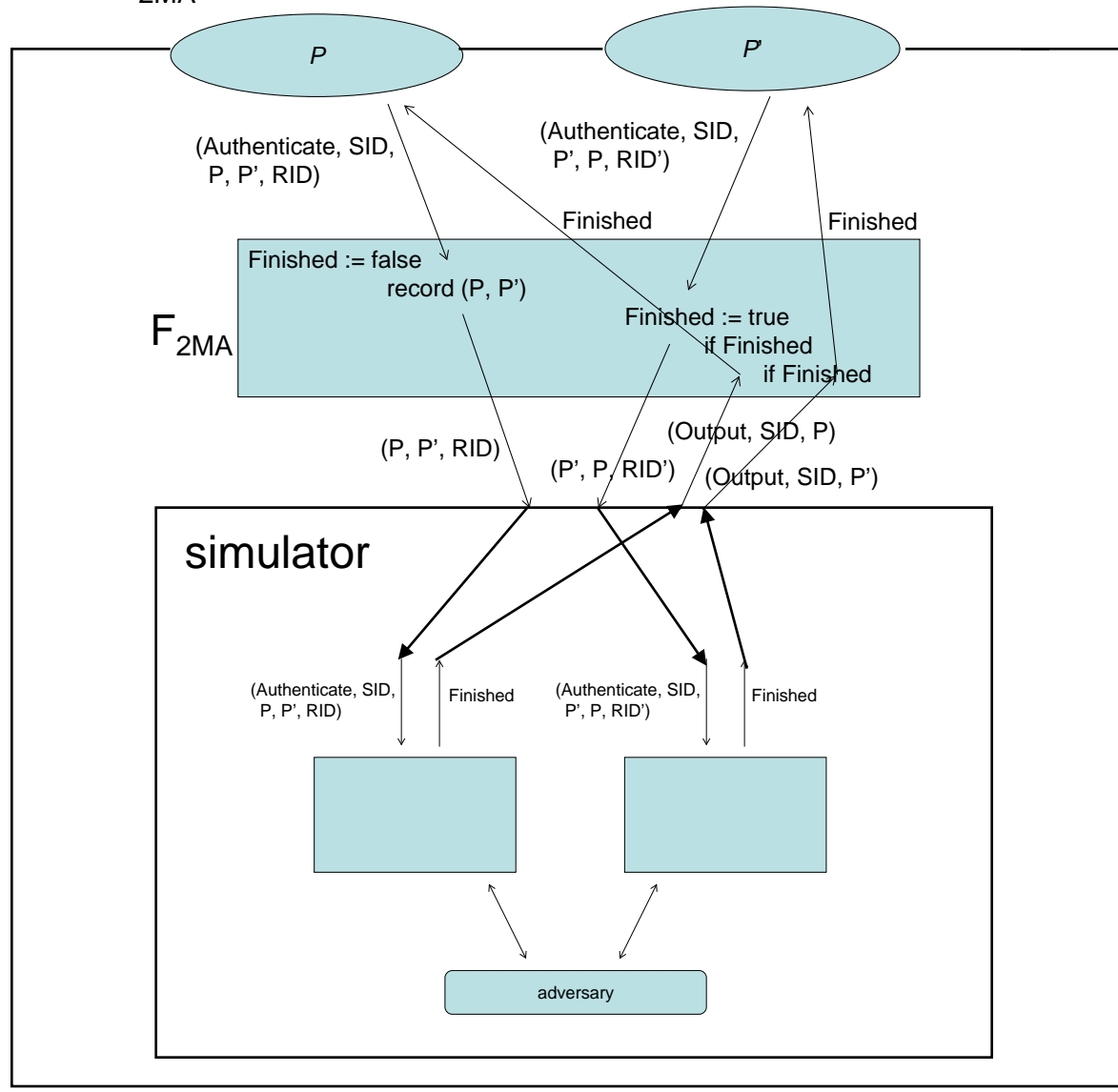


F_{2MA} を実現するプロトコル

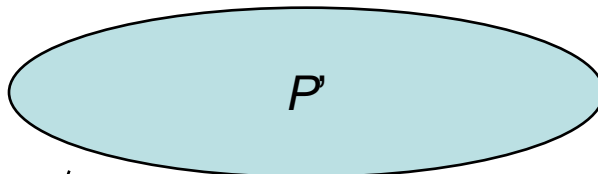
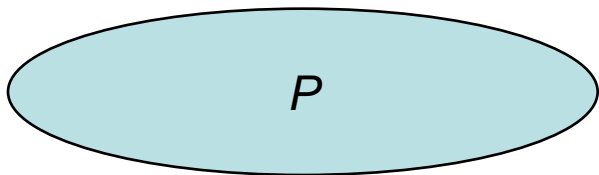


Environment Z

F_{2MA}



F_{2KE}



(EstablishSession, SID, P, P', RID)

(Finished, SID, k) P', P, RID')

(EstablishSession, SID, P', P, RID')

(Finished, SID, k)

record (P, P')

record (P', P)

if the other is corrupted
 $k := v$
else choose random k

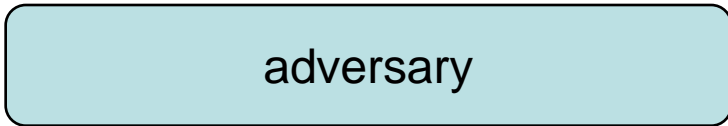
F_{PKE}

(EstablishSession, SID, P, P', RID)

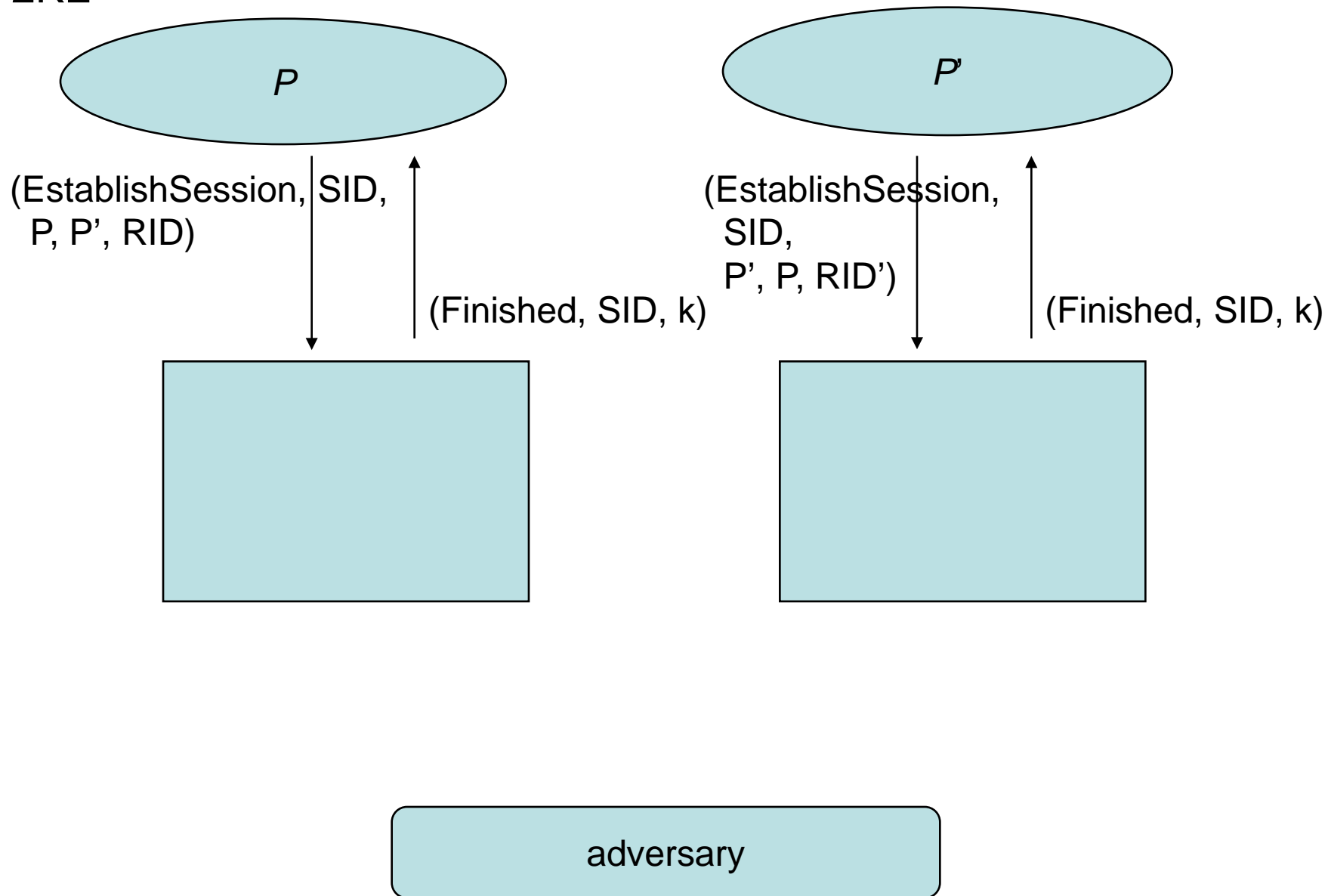
(EstablishSession, SID, P', P, RID')

(SessionKey, SID, P, v)

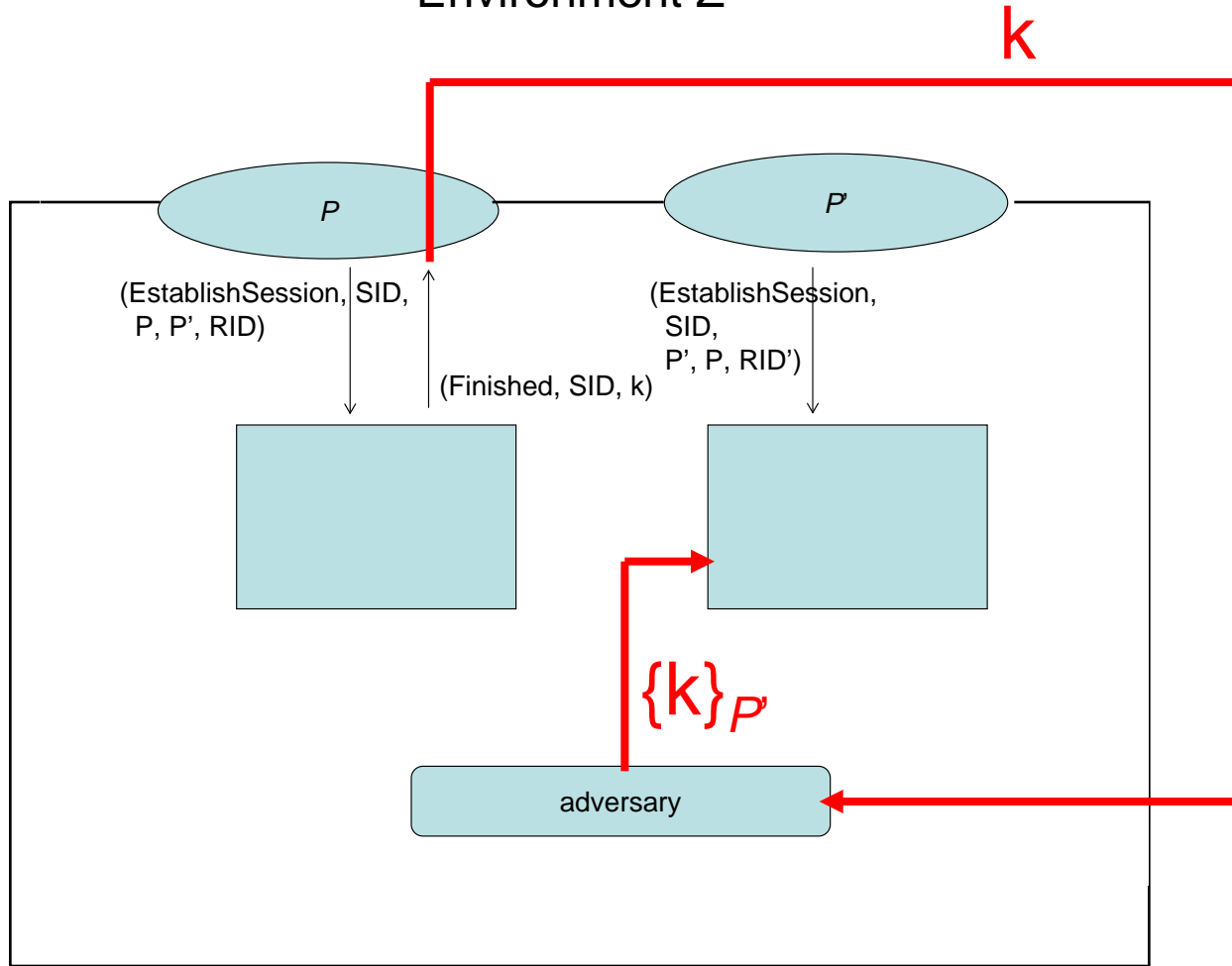
(SessionKey, SID, P', v)



F_{2KE} を実現するプロトコル



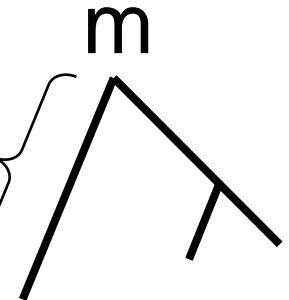
Environment Z



Mapping Lemma

- t : プロトコル p の concrete trace
- $\text{symb}(t)$: t の symbolic trace への翻訳
 - adversary が閉包にないメッセージ m を配布するとき、 $[\text{“fail”}, m]$ に翻訳される。
 - このとき、 m の代わりに以下のような部分メッセージ m_* を配布する adversary を定義可能。
 - m_* は閉包にない nons であるか、
 - または、 $m_* = \{m'\}_K$ であって、 $\{\dots\{m'\}_K\dots\}_{K'}$ というメッセージは閉包に含まれる。

pair か
adversary に
よる暗号化。
adversary が
分解できる。



K も K' も honest party の鍵

$$m_* = \{m'\}_K$$

Mapping Lemma

- m_* がノンスである場合
 - m_* は暗号化されているはず。
 - F_{CKPE} の定義より、adversaryの観測と m_* は独立。
 - m_* は一様に分布。
 - 従って、 m_* を当てる確率はnegligible。
- $m_* = \{m'\}_K$ である場合
 - この場合も、 F_{CKPE} の定義より、 $\{m'\}_K = E_k(r)$ は、wide spreadな関数 E_k による乱数 r の像なので、 m_* は一様に分布。
 - 従って、 m_* を当てる確率はnegligible。

2MAに対するsymbolic criterion

P: Dolev-Yaoプロトコル

(Dolev-Yao mutual authentication)

PのDolev-Yao traceが

P による出力メッセージ $\langle \text{Finished} | P | P' | m \rangle$ を

含んでいるならば、それに先んじて、

P' への入力メッセージ $\langle \text{Started} | P | P' | m' \rangle$ を含む。

2KEに対するsymbolic criterion

(agreement)

P_0 と P_1 がプロトコルを開始した後、

P_0 が $\langle \text{Finished} | m_0 \rangle$ を出力し、

P_1 が $\langle \text{Finished} | m_1 \rangle$ を出力したならば、

$m_0 = P_0 | P_1 | R$ かつ $m_0 = P_1 | P_0 | R$

(real-or-random secrecy)

もとのDolev-Yaoプロトコルを \mathbf{P} 、

実際の鍵 R_r の代わりに乱数 R_f を返す

プロトコルを \mathbf{P}_f としたとき、

任意のadversary戦略 Ψ に対して、

$$\text{pattern}(\Psi(\mathbf{P})) = \text{pattern}(\Psi(\mathbf{P}_f)[R_f \rightarrow R_r])$$

adversary戦略 Ψ

- Dolev-Yaoを満たす adversary eventの列
 - receive, enc, dec, pair, extract-l, extract-r, random, name, pubkey, deliver
- intruderストランドのようなもの
- プロトコル P に対して adversary戦略 Ψ を実行して得られる Dolev-Yao traceを、 $\Psi(P)$ と書く。
- 要するに、symbolicな世界において adversaryを網羅している。

symbolic criterion \rightarrow UC

- $\text{symb}(p)$ のDolev-Yao trace τ' に対して、
$$\text{pattern}(\text{symb}(t)) = \text{pattern}(\text{symb}(t^{\text{F2KE}})) = \tau'$$
という条件のもとで、 t と t^{F2KE} の分布は等しい。
 - t^{F2KE} はideal functionalityのtrace
- $\text{pattern}(\text{symb}(t))$ と $\text{pattern}(\text{symb}(t^{\text{F2KE}}))$ の分布は等しい。
 - 乱数を固定すると両者は等しい。
 - 等しくない場合には、
real-or-random secrecyに違反する Ψ を構成することができる。